

## 2017-2018 年度 第四回中間報告書

(報告期間 2018 年 5 月 23 日～2018 年 8 月 26 日)

国際ロータリー第 2710 地区

グローバル補助金奨学生

小田佳世

◆ 報告書提出日：2018 年 8 月 27 日

◆ 基本情報

派遣クラブ：広島中央ロータリークラブ

カウンセラー：古澤宰治様

受け入れクラブ：Monterey Pacific Rotary Club

カウンセラー：Ms. Lisa Luscombe

教育機関：Middlebury Institute of International Studies at Monterey (MIIS)

専攻：MA in Nonproliferation and Terrorism Studies

グローバル補助金の奨学期間は 2018 年 7 月末提出の最終報告を以って終了しましたが、当方修士プログラムは 2019 年 5 月終了予定ですので、ご指示いただきました通り、引き続き四半期毎に経過報告させていただきます。

## 1. 学業面での成果

2017 年度春学期の成績は以下の通りでした。

- 核不拡散分野における科学と技術（必須）：A
- 北東アジアにおける安全保障と軍備管理：A
- アラビア語 中級 3：A-
- 核不拡散分野における資金調達：A
- 国際的危機における交渉の実践（週末ワークショップのため Pass/Fail のみ）：Pass
- Policy Memo の書き方、読み方：A

修士プログラム 1 年目を良い成績で終えることができ、ホッとしています。次年度も引き続き気を引き締めて学業に取り組んで参ります。

夏季休暇中は下記 2 つのプログラムに参加致しました。

- ① 核保障措置コース（6 月 4 日～8 日：5 日間）
- ② アラビア語スクール（6 月 14 日～8 月 9 日：8 週間）

「核保障措置コース」は、当方が研究助手として勤める核不拡散センターがローレンス・リバモア国立研究所と共同で主催する一週間のワークショップで、国際原子力機関、ローレンス・リバモア国立研究所、ロス・アラモス国立研究所の職員を始めとする専門家らから、核保障措置の仕組みや歴史、課題について学ぶことを目的としています。実際に北朝鮮やイラクで調査活動を行なった専門家から聞く話は興味深く、座学の多いワークショップであったにもかかわらず、退屈を感じる暇もないあっという間の一週間でした。



核保障措置コースの参加者らと。  
当方前列中央。

中でも、六ヶ所再処理工場の建設に関わった専門家の講義内容は、自国の施設に関することであるにも関わらず、知らないことばかりで、とても勉強になりました。プルトニウム再生工場保有の是非についての個人的意見はさておき、世界的に見ても珍しいこの施設における安全保障の仕組みについて、今後更に知識を深めていく必要があると感じました。今般、専門家の方から再処理工場の責任者の方をご紹介いただいたので、次回帰国の際には、ぜひ青森の六ヶ所村を訪れてみたいと考えています。また、このワークショップには、核兵器問題に関わる若いプロフェッショナルが多く参加しており、ワークショップ中の休憩時間は講師陣や参加者との人脈形成の良い機会となりました。

「アラビア語スクール」はミドルベリー大学が主催する夏季語学スクールの一つで、世界中から集められた講師と参加者がアラビア語以外の言語を使用することが禁止された環境で、8週間、文字通り「アラビア語漬け」になるプログラムです。私は今回、このスクールに Kathryn Davis Fellow として参加し、アラビア語力の向上に努めました。

約 170 名の参加者は語学レベルによって 10 人前後のクラスに分けられ、1 日約 5 時間の授業、宿題、クラブ活動や外部講師の講義、映画鑑賞など、様々な方法を用いてアラビア語力の向上に励みます。昨年、当方が大学院の事前プログラムとして参加した夏季講座と違い、参加者全員が寮生活の中で寝食を共にする環境にあったため、食事中や雑談中などにおいてもアラビア語を使うことが求められ、ストレスフルではありましたが、各クラスに 2 名ずつ配置された講師陣の熱心なサポートのおかげで何とか乗り切ることができました。



大学敷地内のサイン。アラビア語以外の言語を使用しない、という誓約が有効である旨記載されています。



授業風景。



アラビア語エジプト方言クラスのクラスメイトと。当方右端。



標準アラビア語クラスのクラスメイト、講師と。当方前列中央。

## 2. 受け入れロータリークラブとの関わり

夏季休暇中はモンレーを離れていたため、受け入れクラブと直接的関わりはありませんでしたが、クラブの方々からは、メールやソーシャルメディアを通して定期的にご連絡をいただきました。

## 3. 直面した課題、問題点等

前回報告書記載の授業料増額とその対応に関しては引き続き注意する必要がありますが、それ以外に新しい課題、問題はありません。

## 4. 今後の課題、目標

修士プログラム 2 年目を悔いのないものにすべく、今年度も変わらずコツコツと日々の学業に取り組んで参ります。